

## 知事と県民の意見交換会（仙北地域振興局）議事要旨

- テーマ： 儲けてカーボンニュートラル！な林業・木材産業を目指して  
～森林資源を活用した林業・木材産業の成長産業化のために～
- 日時： 令和3年7月13日（火）10：50～12：00
- 場所： 【視察】 株式会社 門脇木材 協和工場  
株式会社 大仙バイオマスエナジー  
【意見交換】 大仙市役所協和支所 4階 大会議室
  
- 参加者： A氏（株式会社やまと建築事務所 業務執行役員）  
B氏（株式会社大仙バイオマスエナジー 管理課長）  
C氏（株式会社門脇木材 営業部長兼協和工場長）  
D氏（仙北東森林組合 林政アドバイザー）  
E氏（合資会社佐々木林業）  
  
佐竹 敬久（秋田県知事）  
小西 弘紀（仙北地域振興局長）

### 視察

門脇木材協和工場と大仙バイオマスエナジーを視察。

### 知事挨拶

本日は御参加くださり感謝申し上げます。

この会は、私が知事に就任した年から毎年開催している。

私は普段、業界団体のトップの方々や企業経営者の方々などとお話する機会が多いが、本日は、現場レベルで活躍されている方や、これからの活躍が期待される若い方々とお話しできる貴重な機会である。

参加者の皆様には「意見交換」と難しく捉えず、普段やっていること・考えていることをざっくばらんにお話しいただきたい。それらに対して私が感想を述べさせていただく。

本年4月の県知事選挙の際、私は公約としてコロナ対策等を掲げたが、同時に、コロナ禍であっても進めるべき施策や、コロナ後を見据えた施策も提示した。デジタル化の推進や気候変動への対応などがまさにそれである。今後の5～10年で世界は大きく変わる。

特に、気候変動への対応については、再生可能エネルギーの導入促進や二酸化炭素の削減が一層重要になる。そういった中で、バイオマス発電や二酸化炭素吸収源など、森林に期待される役割は大きい。

これからの日本が生き残っていくために絶対必要となる森林資源が、幸い秋田県には豊富にある。

この森林資源をどう活用していくかが、次代を担う皆様の見せ所だと思う。そして、皆様の取組の後押しをして、広く県民へ普及させることが私どもの責任だと思う。

様々な課題があり簡単ではないと思うが、30年後が「秋田の時代」となる好機であるので、皆様の活躍を期待している。

本日は忌憚のない発言をお願いします。

## 参加者自己紹介

### (A氏)

大仙市（旧中仙町）出身。現在、大曲の建築事務所で建築設計に携わっている。

当社では、「建築は手段であって目的ではない」をモットーに、建築を通じて地域の人々の笑顔・充実を増やすために手助けすることを目的として仕事をしている。

私自身としては純粋な建築設計業務だけでなく、まちづくり活動や、県・大仙市の各種委員も務めている。

本日は、建築材料を選ぶ立場からこの会に参加させていただく。よろしくお願ひしたい。

### (B氏)

大仙市（旧神岡町）出身・在住。税理士事務所に10年ほど勤務していたが、経理に関する前職の経歴を買われて平成30年12月に現在の会社に入社。バイオマス発電については素人だったが日々勉強しており、現在は原料管理・施設管理を主に担当。

日々の業務の中で、原料管理に対する苦労を痛感している。そうした苦労を糧に自分も日々成長していきたい。

皆様との意見交換を、自分の業務に生かしていければと思っている。

### (C氏)

大仙市（旧協和町）出身・在住。現在の会社には入社10年目。前職も製造業だったので製造業界で20年ほど仕事をしてきた。

先ほどは当社協和工場を視察いただき感謝申し上げます。現在協和工場では、これまではあまり行き場のなかった大径材を有効利用したい観点から、海外向け製品や非住宅向けの製材に取り組んでいる。

20年前、住宅建築には主に輸入材が使われていて、国産材使用は少なかった。ウッドショックの影響で国産材が着目され、秋田杉材の引き合いも増えている。価格も上昇傾向なので、地元の森林所有者に還元できるように製材業者として頑張っていきたい。ウッドショックをチャンスと捉え、当社としては川上から川下まで全体を見渡せる林業事業体を目指している。

### (D氏)

仙北市（旧角館町）出身・在住。仙北東森林組合を定年退職後、再雇用で引き続き同組合に勤務。現在は、新たな森林管理制度に関する業務を担当。

現在森林組合では、管内の市町から委託を受けて林政アドバイザー業務、森林経営意向調査、集積計画策定業務などを行っており、多くの森林所有者と接点がある。

様々な報告提案を森林所有者にさせていただくと、皆様真剣に話を聞いてくださり、「自分の仕事は人から求められているのだな」と本当に嬉しく感じている。

今日は、日頃伺っている森林所有者の声を皆様にお伝えできればと思う。

### (E氏)

短大卒業後、父が経営する佐々木林業に入社して、現在7年目。

2016年からの2年間、公益財団法人秋田県林業労働対策基金が実施するニューグリーンマイスター育成学校にて、林業の知識・資格を取得。現在の仕事は事務が中心。

当社は素材生産が中心で、高性能林業機械という大型の重機を導入して機械化による林業に取り組み、県全域で仕事をしている。

林業の現場は担い手、特に植栽や保育などの手作業の担い手が少ないと懸念されているが、当社の従業員数は15名で、今年度より、林業大学校を出た2名の若手が入社と増加傾向にある。

最近は私も現場に行く機会が増え、スギ林の伐採後に植林されずに放置されている事例も多く見かけており、「切ったら植える」という再造林対策については、素材生産する立場として最も重要なことだと認識しているところ。

また、林業現場でのドローン活用が増加傾向。現場で飛ばすことで、山の状況について全体把握ができる。当社でも導入し、私自身も練習している。

当社では、YouTubeやSNSなどを活用しながら、林業の魅力を発信しているので、是非御覧いただきたい。

## 意見交換

### (局長)

皆様の自己紹介・活躍分野のお話を踏まえ、本日の意見交換のテーマを深めていきたい。まず私から切り口をお話しさせていただく。

木を使う方の側では、カーボンニュートラルへの貢献には2つの方向性がある。

ひとつは、これまでの使い方では需要を増やすこと。もうひとつは、新しい技術やこれまでにない使い方によって新しい需要を作り出すこと。

いずれにせよ、需要が拡大すれば取引増となるため、経済が活発になる。この点で、カーボンニュートラルと経済成長が両立する。

そういった観点から、木材の需要拡大に関する話題を皆様から伺いたいと思う。

一方、川上側のカーボンニュートラルへの貢献としては、木材を供給し続けながら再造林して森林資源を蓄えるということ。これ自体は、重要でやらなければならないということが明確だが、一筋縄でいかない複雑な問題があると思う。この点についても、皆様から話題をいただきたい。

今私が申し上げた話に限らず、幅広くお話しいただきたい。

### (C氏)

製材業の立場からお話しさせていただく。

まず、非住宅分野における需要拡大のために、製材工場のJAS認証取得を促進すべきである。統一された品質の製品を安定的に供給し、製材品のトレーサビリティを確保することで、より安心して使っていただけるようになるのではないかと考える。弊社の工場は既にJAS認証を取得しているので、県内の他工場にも広がっていくことを期待する。

現在は一般住宅需要が減少傾向のため、それに代わるものとして畜舎や農業用ハウス等の非住宅分野への製材品利用が増えている。1棟あたりの使用量も、住宅より畜舎や農業用ハウス等の方が多い。建築に際して補助金もいただいている。

林業・木材産業振興のためには、国産材の使用を増やす必要があり、そのためにも、住宅新築の際の国産材使用に補助を頂けたら利用促進になるのでは。

住宅メーカーと話をすると、集成材の品質・価格に関する意見をよくいただく。集成材と同様の性能が表示できる部材もあるので、設計時にそちらの採用も検討してもらえると有難い。求められる製材の品質性能に応えられるよう、工場の設備を整えることも必要かと考える。

当社は川上の業務、素材生産もやっているが、伐採期の造材工法によっては収益構造が大きく変わるものと認識。川上と川中が密接に連携して、製材製品ごとに区別して造材する体制が構築できればと思う。

管理が十分でない山林は、合板材に適さない原木が多いため、バイオマス燃料向けとして計画的に伐採・再造林する施策が必要。

最後に、大学等の研究機関の研究成果をビジネスにつなげるため、研究機関と民間企業との共同研究の促進が必要と考える。昨年、大仙市（旧中仙町）にて県産杉を活用した畜舎を建築したが、建築構造設計の関係で秋田県立大学や関係企業と共同研究し、木造建築での構造設計として成果が認められた。能代市に県立大学の木高研などがあるので、そちらを活用した一層の研究・開発を期待したい。

#### （A氏）

建築士は、建物を建てる際に使用する部材について、県産材を使うか否か等を決めていく立場にあるが、地元の建築士・工務店の目の届く範囲の選択肢として、「地元産木材」という選択肢の露出が増えることが必要と思う。

地元産の木材を使いたいということで工務店に見積依頼しても、入手できない旨の回答をいただくこともある。過去にある案件で、秋田県産材の床材を採用したいと考えたものの、工務店から入手できないと言われた。おそらく、その工務店には県産材入手ルートがなかったものと推察する。

他方、東京ビッグサイトで「Japan Home & Building Show」という催しが毎年行われており、私も参加したことがある。確か宮崎県だったかと記憶しているが、出展ブースで資料をいただいたことで宮崎県産の部材の採用を考えたことがある。

本日の視察で門脇木材さんの工場を拝見し、「地元産の部材はたくさんあるのに、どうして入手・利用できないのか」とギャップを感じた。私は門脇木材さんの製品サンプルは持っているが、単価や施工例等それ以上の情報はなかなか持ち合わせていない。その部分の情報へアクセスしやすくなれば、県内外での利活用が進むのではないだろうか。要は、建築サイドと製材サイドのギャップを埋めることだと思う。

また先ほどCさんが、集成材と同様の性能が表示できることで生産・流通につながると話されたが、重要なことは商売のルールに乗せることと安定供給だと思う。

#### （B氏）

先ほどウッドショックという言葉が出たが、木材価格が高騰して安定的な燃料確保が難しくなった場合を想定し、前年度から林地残材・バークの燃料化に取り組んでいる。

林地残材とは現地廃棄される余った端材のことで、植林時の妨げになっている。

バークは樹皮のこと。堆肥に一部活用されているが、排出量が多く行き場がない。

これらを燃料として有効活用できないかと、積極的に収集・加工して試行錯誤していた。

その結果、燃料として使用する木材の2～3割、日量では50～70トンを経済林材やバークに置き換えることができた。

おかげで、山が綺麗になり植林がしやすくなったため、林業者・森林所有者から感謝されているほか、バークの処理に困っていた製材業者等からも喜ばれている。

木を最後まで使い切ることで、森林整備に少なからず寄与できているものと感じている。

今年度は新たに、樹木剪定時に発生する枝葉の燃料化に取り組んでいる。佐々木林業さんの力をお借りし、大仙市・雄物川の河川沿いと市営大曲球場から発生した枝葉を収集・破砕して約1,000トンを経済林材に燃料化。環境整備にも貢献できた。さらに新しいアイディア

があれば、皆様からお知恵をお借りしたい。

地域貢献として、発電所から放出される熱エネルギーを活用して、冬も暖かい床暖房のあるバス待合所を建設して大仙市に寄贈した。県外グループ企業の発電所では、トマトやキクラゲの栽培なども行っているのので、バス停以外の活用方法も検討したい。

個人的意見だが、カーボンニュートラルに関する世間一般の認識はまだまだ薄いと思うので、バイオマス発電所に対する理解の普及を通じて、カーボンニュートラルの機運醸成ができればよいと考える。

#### (E氏)

正直なところ、これまで林業とカーボンニュートラルとのつながりを考えたことはなかったが、最近ニュースで耳にすることが多くなった。

先ほどの知事の話でも触れていたが、二酸化炭素の吸収源としては森林が唯一の存在であることを改めて認識した。

人間が何もせずとも、二酸化炭素の約半分は陸上の生態系が吸収してくれる。エネルギー消費量そのものを減らすことも大切だが、脱炭素には自然の働きの関わりが大きく、その点で再造林・植林が重要と改めて感じた。

「切ったら、植えて、育てる」という森林循環利用の必要性は明らかだが、植えることの意識があまり高くないと感じている。

カーボンニュートラルの点だけでなく、素材生産業者の立場としても、山の木が減ると困るのでなんとかしたいと思っているのが本音。

社内で検討している対策として、伐採をする際に大型重機が入ることから、その重機があるうちに地ごしらえを行って植栽まで行う一貫作業がよいかと考える。

少しでも人力作業が減るとよい。当社では重機のアタッチメントを交換して下刈り・刈り払いができる機械を保有している。道路脇の法面に生えている立木などを粉碎できる「マルチャー」という機械もある。このような機械を普及・活用していくことが、林業におけるカーボンニュートラル実現につながるものと感じている。当社の林業機械の様子はYouTubeにも掲載しているので、後ほど御覧いただきたい。

また、今後はドローン等のICTの活用により、林業におけるデジタルトランスフォーメーションの進展が重要。作業時間短縮が図られ、その分の時間と労力を素材生産の方に回していけるので、一層の技術革新を期待。

デジタルトランスフォーメーションの進展は担い手不足の解消にもつながる。古くから林業は3Kと言われ労災も多いことから、機械化促進や高性能林業機械導入により、生産性と安全性を向上させたい。

#### (D氏)

カーボンニュートラルの実現という今回のテーマに対しては、環境保全や木材生産等の面で、秋田県の森林資源は十分にその役割を担えると考えているが、課題も多い。

まず、最終的な課題だが、木材価格が安く、横ばいで推移している。

最近ウッドショックということで木材価格の高騰が報道されているが、それはごく一部の話であって、現状で森林所有者まで届いていない。将来的に木材価格は上がるのか下がるのか、大変不安定な状況だ。

木材価格低下は森林価値の低下となり、森林所有者にとって林業が経営として成立しないため、所有者が関心を持たなくなる。これは昔からの課題。

また森林所有者は、収入のため木を伐採するものの、木材価格が低いと当然収入も少な

いことから、再造林のための資金を捻出できない。このため、切りっ放しで放置される山も増えてきた。

林業を取り巻く諸課題については、施業の集約化促進、高性能林業機械の導入、再造林の推進等、多方面で国・県の御支援をいただいている。また、新たな森林管理制度もスタートしている。

様々な施策を展開してもらっているが、いくつか森林所有者の声を紹介したい。

まず一つ目として、再造林の推進について従来からの支援に加え、植えた苗木が成長して一人前になるまでは手入れが必要で、所有者に一定の自己負担が生じることから、その自己負担を軽減できないか。

二つ目として、山林の国土調査を推進していただきたい。山林の境界が確定・明確化し、森林所有者の意識が高まるほか、新たな森林管理制度も順調に進むものと期待する。

三つ目として、既存の林道・作業道の補修・整備・管理をお願いしたい。林道・作業道整備により、保育・施業が容易になる。

### （知事）

皆様から現状・課題・意見等について御発言いただいたが、大体私の想像したとおりだ。

林業・木材産業界トップの方々とよく話をするが、川上、川中、川下は互いに必ずしも利害が一致せず一枚岩になれない。川上は原木を高く売りたいが川中は安く仕入れたい等、仲良く利益を分け合おうと言っても、お互い商売なので簡単ではない。

私は2年ほど前に家を建てたが、その際全ての住宅設備に保証書が付いた。今は、保証書の付かない製品は敬遠されるので、住宅メーカーで採用する床材なども、決まった規格で工業製品化されている。秋田杉の床材にも保証書が付く物があると思うのだが、実例を見たことがない。ホームセンターで取り扱っている千円程の商品にも保証書が付いているのにだ。

また、秋田の木材は、オーダーメイドの超高級品はたくさんあり県外にも多く出ているが、一般家庭向けの手頃な部材は少ない。カタログもない。これでは建築士サイドに選んでももらえない。

さらに、本県は林業に対して相当の予算を充てて支援している。予算規模からすると農業と同等かそれ以上。ただ、小規模事業者が多いため、スケールメリットが生かされていない。

森林資源の維持のために必要なのは「山の若返り」。適齢期の木を伐採して再造林することだ。だが残念なことに、再造林した山の二酸化炭素吸収量がどう変化したか、このような調査は全国的にもない。もしそれが分かれば、再造林のための適切な予算規模や伐採のタイミングも分かるので、全体的な計画や構想が立てやすくなる。

再造林の予算は今後増加傾向。問題は、切った木をどう使うかだ。中国では木を木としてそのまま使うだけでなく、樹脂・金属等と組合せ・融合させたハイブリッド製品を製造している。住宅用建築資材でもハイブリッド製品があるそうで、住宅全体を電子制御してデータを取るようなこともできるそうだ。残念ながら国内ではそういった取組はない。

東京大学の生産技術研究所に専門が建築の秋田県出身女性研究者が居るが、その方は「山を守る」というよりも「山を使って攻める」という発想をお持ちだ。そういった意味で、林業関係は新しい取組・アクションを起こしやすいのではと思う。ICT化も進んでくる。そうは言っても現場レベルでは、林業と建築との交流はあまりないと思う。

とある住宅メーカーでは、秋田杉は柔らかくすぐ傷が付くということで、天井材に活用されている。古くから珍重されてきた木目の綺麗な天然杉ではなく、節の多くある木の方

が格好いいと好まれているらしい。秋田杉に対する過去の評価を見直して、価値を再考する必要があるのではないかと思う。

県立大の木高研では、大断面集成材や不燃材の試験など、何でもできる。

いずれにせよ、川上から川下までの情報交換をやっていこうという話は、先日林業界のトップの方々を集めて道筋が付いたところである。現在、大詰めのところだ。

(局長)

知事からは、いろいろな商売の進め方が秋田県は弱いのではないかとの話があった。要は、これからはアイデア勝負ということだろう。

全面的に新しいアイデアも必要だが、皆様が仕事で取り組んでいる範囲内でのアイデアも大事だろうと思う。そんな皆様のアイデアや、アイデアとは言えないまでも取り組んでみたいことがあればお話し願いたい。

Aさん、いかがか。

(A氏)

現時点ですぐに新アイデアはなかなか浮かばないが、今回の御縁を活かし、アイデアが浮かんだ際は門脇木材さんに相談させていただきたい。

(局長)

最後に知事からコメントをお願いしたい。

#### 知事総括

参加者の皆様には、互いに今回の出会い・御縁を是非生かしてほしい。過去の意見交換会では、農家同士で同じ作物を作って共同で出荷したり、比内地鶏の卵を求める菓子店と卵が余っている養鶏農家が連携するといった事例もあった。これっきりで終わりではなく、連携した新たな取組が生まれることを期待している。若い方々の新たな取組には、県の「若者チャレンジ応援事業」もあるので、ぜひ頑張ってください。

様々な課題はあろうが、林業・木材産業は、二酸化炭素排出削減が叫ばれるこの時世下で明らかに追い風。ここ5～10年の取組で、「木材県・秋田」の地位が確立することも夢ではない。30年後のカーボンニュートラルを目指し、希望を持って共に頑張ろう。

ありがとうございました。(了)